

すべての子供が安心できる2学期にするために

「見る」「聞く」「認める」を意識した学級経営を

「見る」

夏季休業明けで、学校が始まることに不安を感じている子供や夏期休業中に友達関係や家庭環境が大きく変わった子供がいます。2学期ははじめの子供の様子をしっかりと「見る」ようにしましょう。

【「見る」視点(例)】

～健康～

- 登校時や授業中に眠たそうにしているか。
- 給食を残したり、食べ過ぎたりしていないか。

～表情～

- 授業中の態度に変化はないか。
- 気分にもらがらないか。イライラしていないか。

～環境～

- 友達関係に変化はないか。
- 夏季休業中に家庭状況の変化はなかったか。



子供の様子に合わせた支援をすることが大切です。

～支援(例)～

- ★起床時間や就寝時間等を聞き取り、生活リズムを整えるように助言する。
- ★夏季休業中に努力したこと等を把握し褒める。
- ★家庭環境の変化等を把握し、関係機関と連携する。

「聞く」

コロナ禍による生活が変化することへの戸惑いや学習内容が難しくなることへの不安等、子供は様々な思いをもって2学期を過ごします。子供の思いを丁寧に「聞く」ことで、一人一人の気持ちを受け止めましょう。

【「聞く」ポイント】

- ①話しやすい場所で
- ②じっくり待って
- ③子供目線で警戒心を解きながら
- ④共感して



休憩時間に声をかけたり、行事の準備期間と一緒に活動しながら話をしたり、教育相談期間を利用したりと、「聞く」方法は様々あります。直接「聞く」だけでなく、日記や生活ノート等も有効です。情報は、職員間や関係機関で共有しましょう。

◎どんな気持ちなんだろう？



△子供を励まして何とかしよう



◎言いたいことはなんだろう？

△やる気がないから説得しよう！

「認める」

子供の自己有用感を育むためには、教師が子供を認め育てることが大切です。様々な活動や行事の中で、子供の熱意や頑張りを「認める」ことで、一人一人のよさを引き出しましょう。

【「認める」視点(例)】

- 目立たなくても責任をもってやり遂げている。
- いつもと同じように継続して取り組んでいる。
- 目標まで行き着かないが、その子供なりに全力で取り組んでいる。



大きな行事だけではなく、日々の生活の中で活躍できる場を設定することも大切です。また、教室掲示や学級通信等で子供の頑張りや思いを「認める」こともできます。

～行事の準備期間にこのような子供の姿はありませんか～

- ◆自分の考えを表現せずじっとしている。
(友達の意見を尊重しているように見えるけど…) → 実は、自分の思いを聞いてもらえないと感じている。
- ◆行事が近づくにつれて元気がなくなる。
(準備を頑張り、疲れが出たように見えるけど…) → 実は、苦手意識があり、行事に参加することに不安を感じている。



学校行事等に対して、苦手意識をもっていたり、参加することにプレッシャーを感じていたりする子供もいます。行事前後のすべての子供の様子を「見て」、思いを「聞き」、しっかり「認める」ようにしましょう。